

令和 5 年度 「第 1 回 FD 研修会・意見交換会-教員採用率向上のために 何ができるか-」を聴いて

理科教育講座（生物）・中村 依子

1. 概要

第 1 回 FD 研修会・意見交換会では、愛媛県の高校 1 年生の数の推移からはじまり、小中学校の退職者数・採用数、教員の受験者数の推移、教員の不足、教員採用試験倍率予測、また教員の愛媛大学占有率、各県の教員就職率へと話が移り、愛媛大学教職大学院は何ができるか、教職キャリアについて説明があった。最後は教員就職率を上げるために何ができるかについて、グループに分かれて話し合った。

2. 総括

文部科学省が公表した、2023 年度に採用された公立学校教員の採用試験実施状況によると、公立学校全体の競争率は 3.4 倍（前年度 3.7 倍）で過去最低で、このうち、小学校のみでも 2.3 倍（同 2.5 倍）で最低であった。その要因をざっと調べてみると、日本若者協議会の「教員志望者現象に関する教員志望の学生向けアンケート結果」(211 人対象)では、志望者が減っている理由として、複数回答で、「長時間労働など過酷な労働環境」(94%)、「部活顧問など本業以外の業務が多い」(77%)、「待遇(給料)が良くない」(67%)であった。また、トモノカイの調査(2023)によると、教員を志望していた学生の半数以上が教員を目指すことに後ろ向きであり、その理由は「労働時間が長く、部活動や行事などで休日出勤も多いことを知ったから」が最も多く 53.6%、次いで「教職課程の履修科目が多いなど教員になるまでの道のりが遠いから」が 9.7%で、「公立校は残業代が支給されないから」と回答した学生は 9.2%であった。どうも、教員志望の減少理由として、「長時間労働」が大きいようだ。最近の社会のワーク・ライフ・バランスを重視する働く意識の変化の影響と考えられる。世界的に見ても、日本の教員の勤務時間はダントツに長く、教員の残業の上限は決められたが、罰則はないそうだ。教員は天職、好きでやってい

る、生徒のためと社会が教員に甘えているのではないだろうか。教員を志望する学生は親も教員であることが多く、親を見てこんなもんだと思い、悪しき伝統のようなものを断ち切れないのではないだろうか。教員不足を補う上でも、やりがいに頼らず、「ブラック」な教育現場の待遇改善に向けて、教員の数を増やすなどのため予算を増やすことが必要である。国が一番の理解者になることを切に願うばかりである。

特に、研修会で挙げられていた、女性の受験者数がここ数年で激減している現状は、教員志望者の減少に大きく繋がるものであり、非常に問題である。女子中高生が将来なりたい職業の調査(2023)では、中学生、高校生ともに教師が 10 位以内に入っている。教員不足にも繋がる「キャリア志向が強い」女性志望者の激減を解決する方法を話し合わないのはなぜですか。教育の発展を阻むものは、何ですか。

参考 URL :

日本若者協議会(2022) 教員志望者現象に関する教員志望の学生向けアンケート結果
<https://youthconference.jp/wp/wp-content/uploads/2022/04/fa63de44232d08d37e0aa6e5672639cc.pdf>

OECD 国際教員指導環境調査(TALIS)(2018)
https://www.nier.go.jp/kokusai/talis/pdf/talis2018_summary.pdf

ソニー生命(2023) 中高生が思い描く将来についての意識調査 2023

https://www.sonylife.co.jp/company/news/2023/nr_230725.html#sec6

川崎祥子(2019) 教員採用選考試験における競争力の低下-待遇改善による人材確保の必要性-立法と調査. 11(417): 18-27.

https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2019pdf/20191101018.pdf